

## 第12期後半期を迎えるにあたって

日本経済は、世界金融危機を乗り越え回復基調にあると言われてきましたが、有効求人倍率が低水準で推移するとともに正規採用者の減少や雇用のミスマッチなど、勤労者・生活者を取り巻く環境は依然として厳しい中、想像もしなかった東日本大震災や原発事故の発生により、生活が一変し将来不安は増大しました。

第12期は、これまで多くの先輩諸氏が一つひとつ積み重ねてきた20年の活動の歴史を受け継ぎ、将来を見据え、『頼りにされる存在として地域社会に笑顔があふれる活動を進めよう!』を基本目標に掲げ、『キャッチ・アップ連合群馬!』をキャッチフレーズに産別・地協・県連合が一体となり、関係団体も含めスケールメリットを発揮した運動を継承し、新たな課題にも積極的にチャレンジすることを心がけて活動を進めてきました。

第12期前半期を振り返ると、活動の柱として挙げた①「政策提言と実現」は、1万人を超える県民意識調査から、勤労者・生活者の声として全市町村に提言したことにより、連合群馬の存在価値が高められ、連合でなければ取り組めない大変参考になる意識調査であると行政からも高い評価を受けています。②「なんでも労働相談」は、相談件数が増加し相談内容も多種多様化することから、学習会の開催で相談スキルの向上を行うとともに、行政の発行する広報誌に掲載してもらうなど、広く県民に知ってもらう取り組みを実践しました。③「ぐんまふれあいフェスティバル」は、全県統一開催日の設定から、開催日の幅を設けるとともに、活動が広く県民に理解されたことにより、過去最高の5万人を超える来場者を記録しました。

東日本大震災の対応では、連合群馬に災害対策救援本部を設置し緊急的な取り組みとして、群馬県や構成組織と連携した救援物資の提供を行うとともに、長期的には地協と連携したカンパ活動、被災地へのボランティアなど、産別・地協・県連合が一体となって積極的に展開しました。

最も身近な統一地方選挙では、我々働く者の立場に立った政策の実現をはかるべく総力を挙げて取り組み、組織内から新人2名を含め25名の当選を果たすことができました。

私たちを取り巻く環境は、第12期期初で活動方針を策定した時より悪化しており、連合の果たす役割と責任は益々大きくなっています。第12期後半期も厳しい経済・雇用情勢や取り巻く環境に十分配慮しつつ、着実に活動を前進させるため連合群馬の総力を挙げて取り組みを進めます。

これまで連合群馬が築いてきた「連携・連帯」から「連動」へと活動をさらに強化させ、強い基盤をつくりながら将来に向け活動を進めていきたいと思えます。

皆さんとしっかりと話し合いながら、明るく元気な群馬をつくるため、仲間と一緒に一歩一歩前進させて行きましょう。

会長 北川 秀一